

日本福祉心理士会 ニューズレター (No. 13)



**2024年12月発行 内容:会長挨拶、会員の活躍の様子、
第10回全国大会のご案内、担当者より**

ご挨拶 日本福祉心理士会会長

富樫 ひとみ (茨城キリスト教大学)

2024年も余すところあと僅かとなり、辰年から巳年へバトンタッチされます。今年もさまざまな出来事がありました。嬉しい出来事では、日本の無人探査機「SLIM(スリム)」が月への着陸に成功しました。パリオリンピックやパラリンピックでの日本人選手の大躍進も記憶に新しい出来事です。

一方で、自然災害や大事故もありました。福祉制度の充実や心理的支援の大切さを一層感じさせる年でした。

また、衆議院議員選挙など、多くの公職選挙法による選挙が実施され、全国的に民意が問われた年でもありました。

福祉心理士会でも、より民主的な運営を図るべく、皆様のご意見や要望にしっかりと耳を傾け、反映させていきたいと思えます。また、活動の礎となる規約・規則を整備し、社会・心理的課題に対する福祉心理士の活動を支援していくよう、鋭意取り組んでまいります。

福祉心理士会では、今年度の全国大会(総会・研修会)を2025年2月16日(日)に開催します。例年、学会大会と同一日に開催しておりましたが、日程調整が叶わず、別日の開催となりました。

福祉心理士会全国大会は、会員の皆様のご意見やニーズをお聞きできる大切な機会でございます。年度末のお忙しい時期ではございますが、ぜひともご参加をお願いします。

最後になりましたが、皆さまおそろいで穏やかな新年を迎えられますよう、心よりお祈り申し上げます。

会員の活躍の様子

○荒谷 容子さん（岩国短期大学）

私は、現在山口県岩国市岩国短期大学幼児教育科で心理学の教員として勤めています。8年前にやっと本学で常勤の教職に就きました。それまでに、ほぼ10年近く高齢者心理学を専門として非常勤の教職、またスクールカウンセラーとして小中高校生に面談をしながら研鑽の日々を過ごしておりました。当時は福祉心理士としての活動意識はほとんどなかったというのが正直なところです。

さて、本学の卒業生はほぼ全員が保育士資格や幼稚園教諭資格を取得して地元の保育園、幼稚園、認定こども園、また児童養護等施設に就職していきます。残念なことに、社会で必ず必要とされるこの職業が責任を伴う大変な職業という意識のためか、近年保育士志望者が減少している状況です。子どもが好きで子どもに関わる仕事に就きたいと入学する学生は2年間で見事な成長を見せてくれます。実習明けの度に顔つきが変化してくるようになり、現場から得た知識と協働の意味を少しずつ学んで帰ってくるのだと理解しています。彼らは実習視察では殆どが大丈夫だと答えますがその後の授業でぐったりしているのを見ると緊張の連続だったのだと察しています。私は現在も福祉心理士としての活動意識はあまりないのですが、これまでの経験値から目の前の学生に言葉をかけ、必ず一人ひとりにねぎらいと励ましを伝えるようにしており、これが自分なりの活動になっているのかもしれませんが。本学は米軍基地を有する岩国に所在する保育者養成校として、「多文化共生保

育研究」を進めており、昨年から2年連続の助成金獲得研究の成果があります。外国籍園児が在籍する岩国保育が研究のテーマになっています。

○大部 令絵さん

（日本社会事業大学通信教育科）

「障害福祉で就労のサービスって“上”なんですか？ 障害のある人の親御さんからそう聞きました」

数年前の、ある学生の質問（一部改変）です。本稿をご覧の皆様は、この質問にどのように答えるでしょうか？

私は現在、日本社会事業大学通信教育科社会福祉士短期養成課程という社会人対象の課程で、ソーシャルワーク演習、実習、実習指導を担当しています。実習先のあらゆる事柄に実習生が新鮮さを感じてひきつけられていく様子は、大学生でも社会人でも変わらないと感じます。そうした実習生が“興味深かったこと”としてよく挙げる事柄の一つが、サービスを利用する本人やご家族の心理です。

私は、実習生のこうした学びを深める際に、福祉心理学の視点が活きると感じます。障害分野に限らず、福祉のサービスには一般のサービスでいう“アップグレード”はなく、各サービスで対象者や目的が決まっています。福祉サービスに上下関係などありえません。しかし、発言者である“障害のある人の親御さん”にそのありえなさを指摘するだけでは支援になりません。就労サー

ビスが“上”ということは、発言者は何らか
比較をしています。では何との比較か、比較
の前に何があったか、この比較が結果的に
発言者の生活に及ぼす影響は？、等を紐解
くツールとして、私は福祉心理学の知識や
研究知見を学生に紹介しています。

冒頭のような問いに福祉心理士として答

え、社会福祉士養成に福祉心理学の知見を
活かすことは、福祉心理学の重要性を強調
することでもあり、間接的に未来の福祉心
理士の育成にもつながると思っています。
教育活動の傍ら、自らも福祉心理士として
の研鑽をつみ続けなければならないと感じ
るこの頃です。

第10回全国大会のご案内

□令和6年度 日本福祉心理士会総会・研修会について

次のとおり総会・研修会を実施いたしますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上
げます。なお、今年度もオンライン（Zoom）での開催となりますことを申し添えます。

○日 時 令和7年2月16日（日） 13時00分から（開始1時間前より接続可能）

○総会 13:00～ ○研修会 14:00～

○テーマ 「高齢者福祉現場の課題と福祉心理士への期待」

○研修会内容

・講演 演 題「超高齢社会における福祉心理士の役割と期待」

講 師：北村 由美 様（関西大学教授）

・実践発表

発表者：大久保 圭介 様（群馬医療福祉大学助教）

塩澤 綾子 様（養護老人ホーム浴風園ケアワーカー）

※申込み方法 令和7年2月9日（日）までに下記QRコードよりお申し込みください。



【担当者より】

今年は、大谷翔平選手の活躍が例年以上に注目され、テレビやネットニュースを見る度に胸が熱くなりました。大谷選手やパリオリンピック・パラリンピックで躍動する選手を見ていると自分も海外で何かに挑戦してみたいと気持ちがこみ上げてくる1年でした。「福祉心理士として海外で何かできないか？」考えてみたいと思います。

(後藤 幸洋)

「日本福祉心理士会ニュースレター」へのご意見・ご感想をお聞かせください。
※〇〇について掲載してほしい、掲載内容の感想・・・お待ちしております。



QRコードを読み取っていただくと、
アンケートフォームにアクセスできます

